

新時代の女子教育への情熱が宿る 「自由学園明日館」

みょうにち



喫茶付見学(1,000円)では食堂で飲み物・焼き菓子をいただくことも



ライト氏自らデザインした照明が印象的な「食堂」



女学校当時は毎朝礼拝が行われていた、幾何学模様の窓が美しいホール

自身が行いました。校舎の設計は、近代建築の巨匠、フランク・ロイド・ライト。帝国ホテルの設計のために来日していたライト氏は、弟子の遠藤新氏の紹介で羽仁夫妻に出会い、その教育方針に共感して設計を引き受けました。浮世絵の収集家としても知られ、日本文化や建築様式に深く興味を寄せていたといわれるラ

日本初の女性新聞記者といわれるもと子氏は、これからの時代の女子教育に必要なことは、知識の詰め込みではなく、物事の本質を見極め自ら学ぶ力をつけさせること、と学園を創立。「生活そのものが学びである」との信念のもと、食事の支度や掃除なども生徒

東京・池袋駅から歩いてほんの数分、賑やかな街並みを抜けた先の住宅街に、ふと現れるベージュの外壁と幾何学模様の窓。思わず足を止めてしまう美しい建物が、「自由学園明日館」です。1921(大正10)年、ともにジャーナリストだった羽仁もと子・吉一夫妻によって女学校として創立されました。

「動態保存」のモデルとして運営されており、内部を見学できるほか、様々な講座の開催、結婚式など各種イベント会場としても利用することができます。日本でライト建築が現存しているのは、明日館を含めて4カ所のみ。新時代の自由な教育を目指した羽仁夫妻にも想いを馳せ、静かで豊かな時間を過ごしてみたいかがでしょうか。

自由学園はその後、生徒数の増加により移転しますが、旧校舎は明日館と名付けられ大切に受け継がれてきました。関東大震災や太平洋戦争、老朽化による取り壊しの可能性などの危機を耐え抜き、1997(平成7)年には国の重要文化財に。約3年にわたる修理・復原を経て、現在は使いながら保存する

イト氏は、「プレーリースタイル」といわれる、独自の建築様式を確立。草原(プレーリー)のように水平線を強調した低く横に伸びるデザインが魅力で、明日館の校舎もライト建築ならではの特長が見られます。また、外観からは平屋のように見えますが、内部はなんと3層構造。炊事場、食堂、ホールなどの階層を分け、つながった空間に段差でアクセントをつけることで、それぞれの場が自然と仕切られるよう工夫されています。

■自由学園明日館 東京都豊島区西池袋2-31-3

TEL: 03-3971-7535 / FAX: 03-3971-2570 / メール: myonichi@jiyu.jp / URL: https://jiyu.jp/

※アクセスなどの詳細は2頁をご覧ください。